

平成19年度横浜市文化財施設指定管理者  
外部評価委員会評価報告書

横浜市教育委員会

# 平成 19 年度横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会評価報告書

## 《 目 次 》

1	外部評価の導入	1
2	横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会の設置と目的	2
3	横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会開催経緯	3
4	横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会評価の作成	4
5	横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会評価結果一覧・評価意見一覧	6
	(1) 横浜市歴史博物館	7
	(2) 横浜開港資料館	16
	(3) 横浜都市発展記念館	25
	(4) 横浜ユーラシア文化館	33
	(5) 横浜市三殿台考古館	41
6	横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会「総評」	45
	【 参考 】 横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会要綱	50

## 1 外部評価の導入

横浜市文化財施設 5 館の管理・運営については、市民協働・住民サービスの向上ならびに経費の節減等を目指すため、地方自治法の一部改正に伴う指定管理者制度を導入し、同法第 224 条の 2 第 3 項の規定に基づき、指定管理者による管理運営に係る協定書を平成 17 年 12 月 1 日に締結し、平成 18 年 4 月 1 日より制度に基づく業務運営が実施されている。

本制度に基づく指定管理者による施設の管理・運営については、「指定管理者業務の基準」に基本方針・業務基準の指針が規定され、指定管理者提案書「事業計画書」には、指定管理期間での事業遂行提案が提示されている。

文化財施設指定管理者は、本基準・計画書に基づく事業計画を進め、その遂行にあたっては、「事前・事後評価（P D C A）」を的確に取り入れ、その結果を次の事業計画に向けての改善に活かして行くことの自己評価制度対応が、総ての事業展開に対する取り組みとして行われている。

事業の実施計画・報告については、「協定書第 21 条(1)～(3)」の規定により、各報告書の作成・提出が行われ、市は指定管理者による業務遂行状況、実績確認を目的とした定例モニタリングを定例的に実施している。

市は、このように指定管理者による具体的な「事前・事後評価（P D C A）」規定によって実施されている各業務の遂行状況・成果等について、有識者ならびに市民等によって構成される外部評価委員会を設置し、各年度での各施設管理運営に対する適正な実績評価を実施する。

### 《 指定管理者外部評価対象施設：横浜市文化財施設指定管理 5 館 》

- (1) 横浜市歴史博物館 (横浜市都筑区中川中央 1-18-1、TEL912-7777)
- (2) 横浜開港資料館 (横浜市中区日本大通 3、TEL201-2100)
- (3) 横浜都市発展記念館 (横浜市中区日本大通 12、TEL663-2424)
- (4) 横浜ユーラシア文化館 (横浜市中区日本大通 12、TEL663-2424)
- (5) 横浜市三殿台考古館 (横浜市磯子区岡村 4-11-22、TEL761-4571)

### 《 横浜市文化財施設 5 館指定管理主管事務局 》

- ・ 横浜市教育委員会生涯学習部文化財課 (横浜市中区港町 1-1)

### 《 横浜市文化財施設 5 館指定管理者 》

- ・ 指定管理期間 平成 18 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日
- ・ 指定管理者 横浜市都筑区中川中央 1 丁目 18-1  
財団法人 横浜市ふるさと歴史財団 理事長 高村直助

## 2 横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会の設置と目的

第三者評価機関である外部評価委員会の設置については、平成17年3月3日、総行第66号「指定管理者制度導入手続きにおけるチェックリスト(通知)」にて、指定管理者の管理運営状況について定期的な評価の必要が指摘されている。

この主旨に基づき、横浜市文化財施設5館についての管理運営状況等の評価については、「指定管理者業務の基準」において外部評価委員会の設置が規定され、各施設の管理運営ならびに改善を目的とした、利用者の視点に立った第三者による実績評価を行う外部評価委員会を、「横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会要綱」により設置した。

また、本外部評価委員会による評価の目的は、「指定管理者業務の基準」での政策的課題を基本とし、指定管理者により提出された「事業計画書」での管理運営業務での遂行が、十分になされているかの確認・実績評価を行うことで、その評価成果が各文化財施設のさらなる質の向上と活性化を図り、市民からの一層の信頼を得られる施設となることを目的として取り組み、その改善指摘事項は、指定管理者に受け入れられ・運用され、さらに自主的な管理運営が行われるよう評価報告の作成を行う。

### 《 横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会委員 》

「横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会要綱」(平成19年1月19日制定)規定に基づき委嘱。

外部評価委員会委員の任期は、平成19年2月7日より文化財施設すべての指定管理期間が終了し、当該期間の最終年度の評価を終了した日までとする。

No.	氏名	専門分野	所属	備考
1	池田 修	施設運営・利用	BankART1929 代表	
2	上山 和雄	歴史学・近代史	國學院大學教授	委員長代理
3	西田 由紀子	市民・施設利用	よこはま市民メ セナ協会会長	
4	宮本 直利	学校教育・施設利 用	小学校校長会会長	平成20年7月18 日付委嘱
5	水嶋 英治	博物館学・施設運 営管理	常磐大学教授	委員長

### 3 横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会開催経緯

外部評価委員会は、「横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会要綱」の規定に基づき、第1回より第5回までの委員会を開催し評価報告書の作成を行った。各外部評価委員会での議事・検討内容等については下記のとおりである。

委員会	開催日	議事・検討内容
第1回	平成20年8月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部評価委員（宮本）の委嘱について</li> <li>H18年度外部評価報告に対する対応状況報告</li> <li>各文化財施設「業務運営」・「組織管理」別、実施・評価チェック一覧表による業務進捗確認</li> <li>事業区分での外部評価実施対象事業の選定</li> <li>H19～22年度外部評価ヒヤリング対象事業の検討・選定・方針決定</li> </ul>
第2回	平成20年9月29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>H19年度横浜市歴史博物館指定管理者業務報告とヒヤリングの実施。ならびに評価検討。</li> </ul>
第3回	平成20年11月7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成19年度横浜開港資料館指定管理者業務報告書とヒヤリングの実施。ならびに評価検討。</li> <li>平成19年度横浜市三殿台考古館指定管理者業務報告とヒヤリングの実施。ならびに評価検討。</li> </ul>
第4回	平成20年11月14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成19年度横浜都市発展記念館指定管理者業務報告とヒヤリングの実施。ならびに評価検討。</li> <li>平成19年度横浜ユーラシア文化館指定管理者業務報告とヒヤリングの実施。ならびに評価検討。</li> </ul>
第5回	平成20年12月8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>各文化財施設「評価結果一覧」、「評価意見一覧」作成</li> <li>外部評価「総評」の作成について</li> <li>外部評価報告書の作成日程等について</li> </ul>

## 4 横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会評価の作成

各文化財施設指定管理者管理運営事業に対する、外部評価委員会での業務評価については、各文化財施設指定管理者によって管理運営業務実績について作成・提出された、①「月次報告書」、②「四半期報告書（年度報告書）」、③「指定管理者点検評価シート（指定管理者自己評価）」等を、主要な評価検討基本資料とし、各文化財施設の現地視察ならびに指定管理者とのヒヤリングを行い、その結果をもって評価作成の取り組みを行った。

### (1) 評価の方法

外部評価各委員による評価作成は、各文化財施設での事業区分別に作成した「指定管理運営業務評価シート」により、事業区分別評価、事業区分総合評価の作成を行った。

評価は、下記の要領にて4段階評価にて行った。

#### ア【事業区分別評価の基準・段階】

- ・ A ～ 十分に業務成果が認められる。
- ・ B ～ 概ね業務成果が認められる。
- ・ C ～ 一部業務成果が認められる。
- ・ D ～ 業務成果が認められない。

#### イ【事業総合評価の算定・段階】

事業区分別について評価されたA～D段階については、「A＝4点」、「B＝3点」、「C＝2点」、「D＝1点」と点数に置き換え、その積和に対して事業区分別数割合にて算定を行った段階を、事業総合評価段階とした。

（算定結果数値での小数点以下は四捨五入して算定を行う。）

#### ウ【事業区分別評価意見・事業総合評価意見】

事業成果に対する評価意見としての視点については、

- ① 「指定管理者業務の基準」、「指定管理者事業計画書」での事項内容を満たしているか。
- ② 事業の特色、独自性、成果が得られたか。
- ③ 事業の進捗において、PDCAサイクルの取り組みがなされているか。  
を視点として、今後の事業への取り組みに対し、質の向上と活性化等を図るための指針とした内容での記載とする。

### (2) 評価対象事業の基本選定について

外部評価委員会における平成18年度評価報告書では、各文化財施設で実施・報告された総ての事業について評価を行ったが、平成19年度以降につい

ては、各年度において評価対象事業を選定し実施することとする。

なお、各文化財施設指定管理者事業報告書に対するヒヤリングについても、平成19年度以降はテーマを選定し実施することとする。

#### ア【各年度評価対象事業】

① 平成18年度 各文化財施設年度事業報告書での、総ての「指定管理者点検評価シート」記載事業について実施。

② 平成19～22年度

平成19・21年度は、各文化財施設年度事業報告書での、「運営事業」を中心に選定実施し、平成20・22年度については、「管理事業」を中心に選定実施する。なお、「市民協働・広報宣伝・利用者サービス」関連事業については、毎年評価を実施する。

#### イ【各年度ヒヤリング対象事業】

① 平成18年度 各文化財施設年度事業報告書での、総ての「指定管理者点検評価シート」記載事業について実施。

② 平成19～22年度

〈平成19年度〉・来館者サービスの面から見る広報サービス

・教育サービス

〈平成20年度〉・財政、経営面（収益性）

・来館者促進

〈平成21年度〉・資料面（展示、収蔵資料、データベース化、インターネットサービス

〈平成22年度〉・学術面（調査研究）

・総合評価

・達成率チェック

以上、上記（1）ア～ウ記載内容での評価方法に基づき、（2）ア評価選定対象事業について、横浜市文化財施設5館に対する平成19年度指定管理者外部評価委員会による実績評価を行った。

評価結果は、下記の〈5〉には「評価結果一覧」・「評価意見一覧」として集約し、〈6〉には、「評価総評」を記載した。

## 5 横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会

### 評価結果一覧 ・ 評価意見一覧

- (1) 横浜市歴史博物館
- (2) 横浜開港資料館
- (3) 横浜都市発展記念館
- (4) 横浜ユーラシア文化館
- (5) 横浜市三殿台考古館



横浜市歴史博物館評価結果一覧

事業総合評価	評価委員					委員総合評価
	1	2	3	4	5	
1・2事業総合評価	B	A	B	A	B	B
1. 市民協働事業展開について (1)市民ニーズの把握 (2)学校教育との連携 (3)市民活動との協働	B	B	B	B	B	/
2. 経費削減・収益向上事業について (1)収益向上事業	B	A	B	A	B	
5事業総合評価	A	A	A	A	A	A
5. 企画展・特別展示運営事業について (1)「ヒトが移る、モノが動く」 (2)「旅のキオク」 (3)「合戦絵巻」 (4)「鶴見合戦」 (5)「横浜市指定・登録文化財展」・「横浜の遺跡展」 (7)5ヶ年展示計画 (6)「青葉の村々と矢倉沢往還」 (8)共催展計画	A	A	A	A	A	/
6・7事業総合評価	A	A	A	A	A	
6 調査研究事業について (1)5ヶ年調査研究計画 (2)H19年度調査研究事業 I 基礎的調査研究 II 企画展開催に向けての調査研究	A	A	B	A	A	/
7 資料収集事業について (1)5ヶ年資料収集計画	A	A	A	A	A	
10・11事業総合評価	A	A	A	A	A	A
10 出版・刊行事業について (1)「横浜開港150周年」記念図説出版事業 (2)調査研究報告刊行事業 (3)展示図録刊行事業 (4)資料目録刊行事業 (5)紀要刊行事業 (6)その他刊行事業 (7)刊行物配布計画事業	A	A	A	A	A	/

事業総合評価	評価委員					委員総合評価
	1	2	3	4	5	
<b>11 普及啓発事業について</b> (1)生涯学習協働事業 (2)学校連携事業 (3)野外施設活用事業 (4)「ふるさと横浜探検」事業 (5)体験学習事業 (6)歴史講座事業 (7)古文書解読教室開催事業 (8)中世史講読講座事業 (9)古代史講読講座事業 (10)土器づくり教室事業 (11)開館記念特別講演会 (21)日常体験学習事業 (14)「文化財情報利用システム」運用・公開事業	A	A	A	A	A	
<b>12・13事業総合評価</b>	A	A	A	A	A	
<b>12. 広報宣伝活動事業について</b> (1)民間企業等と連携事業 (2)招待券・割引券効果活用事業 (3)インターネット活用事業	B	B	A	B	A	
<b>13. 利用者サービス事業について</b> (1)ミュージアムショップ経営事業 (2)飲食サービス事業	A	A	A	A	A	
<b>14・15事業総合評価</b>	A	A	A	A	A	A
<b>14. 来館促進事業について</b> (1)来館者促進事業 (2)野外施設活用促進事業	A	A	A	B	A	
<b>15. その他促進事業について</b> (1)実習・研修の受け入れ事業 (2)高齢者・障害者受入事業	A	A	A	A	A	
<b>18・・21事業総合評価</b>	A	A	A	A	A	A
<b>18. 自己評価・情報公開事業について</b> (1)自己評価公開事業 (2)情報公開推進事業 (3)実績評価事業	A	A	A	A	A	
<b>21. 組織構成と運営について</b> (1)組織体制の確立 (2)意思決定・伝達体制の確立 (3)人材育成・能力開発業務 (4)専門的人材の配置体制に確立業務 (5)施設運営職員の配置体制	A	B	A	B	B	

### 横浜市歴史博物館評価意見

事業区分	各事業評価意見(1~5は各評価委員)	事業総合評価意見(1~5は各評価委員)
1. 市民協働事業展開について	<p>1 横浜市にひとつしかない歴史博物館です。小中学校等への出前講座なども含めて、もっと教育機関と連動する必要があると思います。教育委員会の積極的な推進力が必要です。</p> <p>2 学校団体利用者が減少しているためB評価になっていますが、全体として努力の跡はうかがえます。なお、市民ニーズの把握手段を考えていく必要があります。</p> <p>3 エドゥケーター中心の「学校の博物館利用研究会」開催は、学校教育連携との積極的姿勢として評価に値します。来校数の減少理由について、挙げられている日程調整や仕組みの見直しなど早急に、積極的な改善取り組みを期待したいです。</p> <p>4 次年度の学校状況を把握し、計画・運営を図る必要があります。博物館サイドの事業展開とならぬよう配慮することです。</p> <p>5 良い悪いの評価は別にしても、やはり来館者数で判断されてしまうと、来館校の減少は評価としては低くならざるを得ないと思います。</p>	<p>1 根本的な意識改革が必要だと思います。</p> <p>2 努力の跡がうかがえます。</p> <p>3 エドゥケーター中心の研究会、子供用H. P、教職員研修、出前授業など積極的、かつ重層的な取り組みがなされており、評価に値します。収益向上については、入館者増や利用者の満足度を上げる途にあり、更なる細やかな目配りや仕組みの見直しなどに工夫の余地が残りますが、今後一層の努力を期待したいです。</p> <p>4 課題に対する改善策を示す必要があるでしょう。学校の団体や市民の来館者数の減少は、ニーズとの相対的な問題、年度ごとの状況把握等の面から、その原因を探り対策を練りたいと思います。他館の来館者数の動きも考え、動向把握も必要ではないかと考えます。</p> <p>5 「組織全体としての動きには至っていない」という点については、来年度ぜひ解消していただきたい。同じ指摘を二度繰り返されるような場合は、来年度は評価方法を全体的に見直すことになるでしょう。</p>
2. 経費削減・収益向上事業について	<p>1 抜本的な経営改革をする必要があると思います。</p> <p>3 阪急等民間企業との協賛展開を積極的に行い、地道に成果を上げていることは評価に値するでしょう。しかし18年度評価委員会から指摘されている組織全体での収益向上、経費削減への取り組みが、改善されていない点は課題として残り、PDCAの取り組みも組織全体での共有感覚が必要です。</p> <p>5 「組織的な事業への取り組み」の部分は自己評価はCでした。改善の視点に指摘されていたように、「収益向上・経費節減については組織全体での取り組み」が必要であり、「個々にゆだねているのが現状」である点は改善の余地があります。</p>	

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
<p>5. 企画展・特別展示運営事業について</p>	<p>1 良い企画展が多かったと思います。</p> <p>2 企画展のテーマはそれぞれ知恵を絞った企画で、魅力的であり、大きなエネルギーが注がれたことがうかがえます。しかしそれに応じた予測した参観者を得られなかったという企画が2つ見られ、周知期間の短さや会期の短さなど、技術的な問題があったようです。企画展の回数を減少し、一つ一つにもっと力を入れるということも考えていいのではないのでしょうか。</p> <p>3 春季は小学生向け、又、秋冬は地域との連携を意識し、メリハリのある企画展や特別展を運営実施するなど、鑑賞各層の満足度を上げる企画・プログラミングの取り組みは評価に値すると思います。事業実施内容も豊富で「企画力」が随所に感じられます。</p> <p>4 博物館のもつ魅力、能力を発揮し活用しています。</p> <p>5 児童向けパネルやパンフレットの作成や展示解説、出前授業など学校教育との連携を積極的に行っていることは評価できます。</p>	<p>1 「横浜市とは何なのか」を議論することが、歴史博物館の立ち位置を明確にしていけるかと思っています。</p> <p>2 十分な成果を上げていますが、コメントに記した内容も考慮すべきでしょう。</p> <p>3 「ヒトが移る、モノが動く」における古代の人と物、「旅のキオク」における30～40年代の旅展、更に「合戦」や矢倉沢往還などいずれも、人とモノの流れに地域としての特徴があり、市民にも関心のある歴史博物館ならではの企画に取り組んでおり、評価に値します。都筑区や青葉区との連携、協力を力を入れ、青葉区15周年をからめての展示など努力が感じられ、またバスツアーや講演会、鶴見区や県立金沢文庫等との連携など、開かれた歴史博物館としての存在感が感じられます。</p> <p>4 企画展、特別展示は、企業との共同企画を進められるよう一歩踏みこんでほしい。企業の力を借り、協働面を充実させてほしい。</p> <p>5 新しいターゲット、新しい来館者層を常に獲得していく必要があります。特別展ごとにターゲット層を変えることも必要でしょう。</p>

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
6. 調査研究事業について	<p>2 各事業の進歩はなされているのですが、テーマや方法の設定に際し、学芸部門内で、十分な議論が一層必要だと思われます。また、各学芸員が個別に研究するだけでなく、学芸員間共同のテーマを設定し研究することも必要ではないでしょうか。</p> <p>3 市域出土物(縄文時代の翡翠)を調査研究体系の中でどう位置づけたのか、計画・報告では曖昧な印象があります。</p> <p>5 「市民との共同への取り組み」の部分は自己評価はBですが、全体としては努力していることがわかります。</p>	<p>1 まだ開かれた調査研究とは感じ取れません。市民との協働プログラムをもっと積極的に推進して欲しいものです。</p> <p>2 調査研究は、それぞれ魅力的なテーマが設定され、人材もプールされています。個々とともに、全体として力が発揮されるような仕組みも必要です。</p> <p>3 基本理念「横浜に生きた人々の生活と文化」に基づいて着実に調査研究、5か年資料収集に取り組んでおり、努力がうかがえます。また検討項目に挙げられている市民ボランティア導入の体制づくり着手など、協働への早急な取り組みを期待したいです。</p> <p>4 民間(企業)、市民との協働面を充実させてほしい。特に、民間との協働面、市民の協働面を効果的に住み分けて考え、5か年の中期プランであるので充実を図ってほしいと思います。</p>
7. 資料収集事業について	<p>3 膨大な資料についてフィルム化、データ化を積極的に行っていることから収集計画には期待が持てます。19年度は個人による資料の寄贈が大きな数字を示していますが、引き続き資料収集、研究など地域の文化財を守る、数値では表せない重要な部門にも努力を続けていただきたいと思います。</p> <p>5 新規の収蔵資料のデータ公開は評価できますが、資料整理に市民ボランティアを導入していくことが今後のポイントです。</p>	<p>5 市民ボランティアの導入の長所短所をよく考察したうえで、どの部分を、どのように任せるのか、館側の対応方法なども総合的に検討していくことが必要です。</p>

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
10. 出版・刊行事業について	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 きちんとしたものを刊行されていると思います。</li> <li>2 個々の企画展刊行図録は魅力的です。開港150周年記念作製図書の刊行が期待されます。</li> <li>3 各種出版刊行物は的確に刊行されており評価できます。さらに全国500館に対する刊行物の送付など努力と成果がみてとれます。これら刊行物を有効に活用するためにも、販売や配布先等、民間との協力関係を築くことも急がれます。</li> <li>4 開港150周年実行委員会と連携して「横浜開港150周年」出版事業を進めてほしいです。</li> <li>5 着実に、的確に刊行している点は評価できます。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 一般の書店での販売ができるシステムを構築するなど、もうひとつつっこんだアプローチも検討されてはどうでしょうか。</li> <li>2 多様な出版物の刊行と、多種の事業に取り組んでいます。高く評価されます。</li> <li>3 出版・刊行事業は博物館として重要な事業の一つであり、高いクオリティーと体系づけられた取組みに努めることを期待したいです。また啓発普及事業はアンケート等により参加者のニーズや満足度を把握し、随時見直しや改善、創造的取組の姿勢をもって臨むことが求められます。</li> <li>4 出版・刊行については、博物館ファンドを検討し、普及啓発と連動させた協働面を充実させたい。</li> </ol>
11. 普及啓発事業について	<ol style="list-style-type: none"> <li>2 個々の事業では、その取組みに不十分なものもあったようですが、全体としては多様な事業によく取り組んでおり、高く評価します。</li> <li>3 多様な普及啓発事業を展開しており、体験型歴史講座の好評は、歴史博物館のもつ資源や魅力を活かしている事業であることが見て取れます。引き続き幅広い年齢層をターゲットにした多様な取組み、満足度の高い事業展開を期待したいです。</li> <li>4 市広報紙「よこはま」の広報活動も視野に入れ、各事業の広報を進めてはどうでしょうか。</li> <li>5 これだけの事業をこなしている点は評価できますが、参加者の満足度やニーズの把握が十分でないところもあります。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>5 博物館としての専門性が発揮され、総合力・潜在力を顕在化しているように思われる領域であると評価できます。</li> </ol>

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
12. 広報宣伝活動事業について	<p>1 横浜市のみならず、全国からも注目されるような視点も含めて、広報宣伝活動に取り組んでもらいたいと思います。</p> <p>2 これらの事業の取り組みが、市民のニーズを知り、企画展を成功させる基本になるのでしょうか。事業の実施だけでなく、事業報告内容が不十分では、と思われませす。</p> <p>3 インターネットやメールマガジンを利用した広報活動が19年度にスタートしており、グリーンラインビジョンに無料で広告放映するなど、幅広く広報宣伝に取り組んでいます。さらに協賛企業のチケットへの掲載や、「区民まつり」など地域イベント参加による、博物館周知などきめ細かい努力を評価したいと思います。</p> <p>4 民間からの資金面の協力、企画等の連携が少ないようです。割引券配布は、市民の集まる機関等も活用したらどうでしょうか。</p> <p>5 メールマガジンを発行することで、情報提供を市民のオリジナル作品を商品として取り扱う視点は素晴らしい。</p>	<p>1 弱いと思います。まずはもっと市民や全国の人を知ってもらえるような、強い意志と推進力が必要だと思います。</p> <p>2 広報活動を、施設全体としてどのような仕組みで行っていくのかが見えてきません。</p> <p>3 広報宣伝活動については活字媒体、インターネット等多様な取組みを展開しており評価できます。引き続きHPやCATV, FM, チラシなど積極的に情報発信に努めることを期待します。組織的な事業への取り組み姿勢が必要でしょう。</p> <p>4 広報、サービス事業の面は、拡充を図る必要があるのではないのでしょうか。例えば、企画展ごとの商品購入は、売り上げを伸ばしたものの、更に販売網の拡充の踏み込みが必要ではないのでしょうか。</p> <p>5 市民サービスの向上は直接的に市民の評価につながるもので、今後も一層努力していただきたいと思います。</p>
13. 利用者サービス事業について	<p>3 博物館にふさわしく、かつ魅力あるミュージアムショップや飲食サービスには、組織全体でのプロデュース能力が重要です。ショップ売り上げは100%の成果があり、今後一層の創意工夫を期待したいです。</p> <p>4 ショップ事業との各課との関わりはどのようにすることがよいのか、早期に対策が必要ではないのでしょうか。</p> <p>5 やはり学校教育との連携は弱い点は否めないでしょう。</p>	

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
14. 来館促進事業について	<p>1 使っていない空間がたくさんあるように思います。</p> <p>3 エントランスコンサートや、感謝デーによる来館者拡大事業は「定着」という成果が見られ、評価に値します。遺跡公園等多彩な資源を活用して、市民巻き込み型の取り組みは今後にも期待が持てます。</p> <p>4 近隣住民への関わりがどれ程か検討すべきではないでしょうか。横浜市は他県市の出身者が多く、それらの特徴的な展示、事業を企画してはどうかと考えます。</p> <p>5 「エントランスコンサート」は市民に定着しつつある点は評価できますが、マンネリ化しない工夫が必要です。学芸員による毎月末の土曜日の常設展示解説は地味であるが、来館者の印象が違ってくるので継続していただきたい。</p>	<p>2 着実に取り組まれています。</p> <p>3 博物館を知る機会として、インターンシップ、高齢者の回想法や職場体験等々、促進事業は貴重な場面を市民に提供できます。市民との協働の一環としても参加型の機会がより拡大されることを期待したいです。</p> <p>4 来館者促進のために、広報活動の範囲をどこまでにすべきかを検討したい。市外の中でも県内、東京都、私立小中等のほか、市内私立小中等も考えてはどうでしょう。(実施済みかもしれませんが)</p>
15. その他促進事業について	<p>1 分散型実習は面白いと思います。</p> <p>3 全国で初の試み「長期分散型実習」は注目すべき取組です。中高大、盲学校からのインターンシップ、職場体験等いずれも開かれた博物館として、またモデル事業としても評価に値すると思われまます。</p> <p>5 インターンシップや職場研修、職場体験は社会的な活動であり、評価できます。</p>	



事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
18. 自己評価・情報公開事業について	<p>2 よく取り組まれています。</p> <p>3 自己評価システムの確立及び事業報告書の公開、外部評価委員会の発足等により、事業改善の一定の仕組みができたことは評価。仕組みがより効果的、効率的に循環するための更なる努力が急がれると思います。</p>	<p>1 年間4億5千万円を司る大きな組織です。職員、財団本部、教育委員会が連動して効果的に運用できるような構造を持てるように、何度も何度も議論をして、再構築してもらいたと思います。横浜市を代表する施設のひとつになって欲しいと思います。</p> <p>2 施設の管理運営や、個々の企画展示などは十分に運営されていることから、そのような事業実施に係る組織の仕組みに関しては問題はないです。しかし博物館全体として、当施設が有している能力が十分発揮され、それが市民や社会に発信されているかといえば、問題なしとしない。難しいことではあるが、個々の力、成果を一つにして、博物館全体としての発信力を高めることが求められると思います。そうした観点からの組織の見直しならびに、市の態勢も含めた検討が必要でしょう。</p> <p>3 総合的には、各事業の努力がよい成果につながっていると思われる。一層、市民が訪れたい魅力ある博物館を目指すには、組織全体により高いプロデュース能力と意識の持ち方が必要になると思われます。組織体制の確立について専門性と総合力の両面を配しつつ、組織全体として歴史博物館ならではのプロデュースの目を組み入れられるような体制の工夫や改善を望みたいと思います。</p>
21. 組織構成と運営について	<p>2 施設運営などは着実に進められているが、組織体制、意思決定のあり方に問題があるのではないのでしょうか。</p> <p>3 業務体制の見直しが図られたとの報告があるものの、各事業区分に共通の課題として、組織全体での取り組み、横断的な意思決定や情報共有のあり方に更なる改善が急がれます。ことにPDCAの事業検証を役員・管理職が行っていますが、検証は現場(現場スタッフのプランや対策)を交えて博物館全体としての検証結果を共有し、循環させていくことが望ましい。</p> <p>5 ヒヤリングの過程で、組織体制について少なからず問題を抱えているような印象を持ちました。財団本部がリーダーシップを発揮しなければ単独として決められない多くの課題があるようにも感じられました。</p>	<p>4 資産を生かすために、各館を横断的にしかも重層的にとらえて運営すべきと考えます。～職員と施設間の連携・協働～ 自己評価、情報公開の事業は行われるものの、組織マネジメントは残念ながら見えてきません。</p> <p>5 公益法人改革の流れの中で、自立した財団として組織運営できる体制の構築が必要です。組織体制の確立は急務です。職員の増員なしで休日開館を実現したが、職員の努力にも限界があるため、組織全体で組織体制を見直すことも必要でしょう。</p>

横浜開港資料館評価結果一覧

事業総合評価	評価委員					委員総合評価
	1	2	3	4	5	
事業区分・事業名称						
1・2事業総合評価	A	A	A	A	A	A
1. 市民協働事業展開について (1)市民サービスについて (2)市民ニーズの把握 (3)市民サービスへの取り組み (4)学校教育連携の対応 (5)市民活動との協働						/
2. 経費削減・収益向上事業について (1)経費削減の対応 (2)収益向上施策 (3)外部資金導入施策	A	A	A	A	A	
5事業総合評価	A	A	A	A	A	A
5. 企画展・特別展示運営事業について (1)「横浜浮世絵」 (2)「有吉忠一」 (3)「実業之横浜」 (4)「ハマの謎とき」 (5)企画展関連展示 (6)開港150周年企画展示事業						/
	A	A	A	A	A	
6・7事業総合評価	A	A	A	A	A	A
6. 調査研究事業について (1)開港150周年記念事業 (2)外部団体との連携事業 (3)歴史学的研究						/
7. 資料収集事業について (1)H19年度資料収集事業	A	A	B	A	A	
10・11事業総合評価	A	A	A	A	A	A
10. 出版・刊行事業について (1)出版・刊行物の作成						/
11. 普及啓発事業について (1)市民団体協働事業、講座・講演会事業	A	A	A	A	A	

事業総合評価	評価委員					委員総合評価
	1	2	3	4	5	
事業区分・事業名称						
12・13事業総合評価	A	A	A	A	A	A
12. 広報宣伝活動事業について (1) 媒体開発・戦略の取組み	A	A	A	A	B	/
13. 利用者サービス事業について (2) 飲食サービス提供事業	B	A	B	B	A	
14・15事業総合評価	A	A	A	B	A	A
14. 来館促進事業について (1) 来館者促進事業の展開	B	B	B	B	B	/
15. その他促進事業について (1) 実習・研修の受け入れ事業 (3) 職員派遣事業	A	A	A	B	A	
18・21事業総合評価	A	A	A	A	A	A
18. 自己評価・情報公開事業について (1) 自己評価公開事業 (2) 情報公開推進事業 (3) 実績評価事業	A	A	B	A	A	/
21. 組織構成と運営について (1) 組織体制の確立 (2) 意思決定・伝達体制の確立 (3) 人材育成・能力開発業務 (4) 専門的人材の配置体制に確立業務 (6) 施設運営職員の配置体制	A	B	A	B	B	

横浜開港資料館評価意見

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
1. 市民協働事業展開について	<p>1 全体としてきちんと取り組まれていると思います。</p> <p>2 全体として着実に取り組まれていると評価されます。特に「市民活動との協働」については、高い評価を与えることができます。当館の専門性において、(4)の学校教育との連携については、横浜市歴史博物館の取組みとは異なる姿勢であってもよいかと思われます。</p> <p>3 「市民協働事業プロジェクト」の発足など、資料館を支える市民との協働の具体的なシステムづくり、協働事業実施は評価に値します。「博物館利用研究会」等での検討も含めて、ニーズに即した多面的な資料館活用の努力を今後も期待します。</p> <p>4 協働の講座を開催するなど改善が見られます。</p> <p>5 横浜郷土史団体連絡協議会との連携は、軌道に乗りつつある印象を受けました。会報などを発行したり、エドューケーターを財団に登録して活動の幅を広げている点は評価できます。</p>	<p>1 特筆すべき点は、アーカイブのデジタル化、その貸し出しのシステムの構築です。専門業者との経営的な連携プレーも含めて、もっと広報周知がなされた場合、館を支える基幹事業になると思います。また、それは一般的な博物館のアーカイブ事業の将来の可能性を示すモデルとなると思います。</p> <p>2 よく努力しています。5つの施設がそれぞれ特色を持っており、特に学校教育との連携については、横浜市歴史博物館が中心となり、他施設は特色の発揮に努めるべきでしょう。</p> <p>3 協働事業への積極的取組は、資料館への市民の愛着や、アクティブな活路を開き、資料館のソフト面の充実にも反映されると思われます。引き続きの努力を期待します。</p> <p>4 各事業の推進にあたって、様々な工夫改善が図られています。今後とも、確実に改善の歩みを続けられることを願います。</p> <p>5 施設の特徴を出すよう努力している点は評価できます。横浜市からの管理運営予算が減少されている中で、努力している様子がうかがえます。</p>
2. 経費削減・収益向上事業について	<p>1 努力されていると思います。</p> <p>2 努力がうかがわれます。毎年、事業の1つくらいについては、外部資金が得られるよう努力してください。</p> <p>3 外部資金の獲得、また日常業務におけるこまめな節約(電気、水道)など着実な取組みがなされています。一括契約、発注等の他施設との調整は早期導入実施の方向へ努力してほしいと思います。</p> <p>4 横浜開港資料館を支える人々を増加させるなど、工夫が見られます。</p> <p>5 経費削減は前年度比1.6%の減とのことですが、さらに努力が必要です。外部資金の導入に対して努力している点は評価できます。</p>	

事業区分	各事業評価意見(1~5は各評価委員)	事業総合評価意見(1~5は各評価委員)
<p>5. 企画展・特別展示運営事業について</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 総合的にいい展示だったと思います。</li> <li>2 それぞれ興味ある展示内容になっています。</li> <li>3 都市形成の側面からの企画力が光ります。「実業之横浜」では、鑑賞者にサラリーマンの姿も多くみられる等、ニーズにあった企画を提供することで、潜在的鑑賞者の掘り起こしや、拡大も期待できるでしょう。有料比率7割を越えていることも評価されます。開港150周年企画展示事業については、実施時期も迫っており、歴史的観点からも資料館の果たす役割は大きく、一層の努力を望みたい。</li> <li>4 集客に向けた展示内容の工夫等があり、実績の向上が見られます。</li> <li>5 「横浜浮世絵」展は、観覧者数目標1万8000人に対して、結果が2万1893人という2割増は評価できます。「ハマの謎とき」展も、目標を達成している点は評価できます。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 年に1本でいいので、大ヒットを飛ばして欲しいと思います。</li> <li>2 「横浜浮世絵」は、注目を浴びた展示内容だったようです。他の企画展は、比較的地味なテーマだったのでしょうか。企画展の構成については、「華」のあるテーマと、地味で着実なテーマを織り交ぜつつ、各企画展が存在感を打ち出す努力を今後期待します。</li> <li>3 「ハマの謎とき」にみるように、展示への工夫や、教育機関への積極的な働きかけが、高い目標設定の達成に繋がっており、努力の成果がうかがえます。「有吉忠一」について、震災復興は関心の高いテーマと思われそうですが、展示において有吉の評価が明瞭でないとの自己評価もなされており、一部課題が残されます。企画展については、広報も含めて全体的に努力と工夫が見てとれます。</li> <li>4 各関係機関施設との積極的な協力体制を築けるよう、今後とも模索してください。</li> <li>5 良かれ悪しかれ来館者数は、博物館活動の評価指標であり、微増している点は評価できます。しかし、経営戦略の点からすれば、明確な一本の芯がまだ見えていないような印象を持ちます。学校との連携などは不明確であり、ポテンシャルが高い施設であるので、それをブラッシュアップさせることを重点的に考えたらどうでしょうか。</li> </ol>

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
6. 調査研究事業について	<p>2 開港150周年記念事業については、企画展示や出版など、財団の特色を生かした事業とともに、賑いを演出するような仕組みも期待されているようです。そうした視点への目配りも必要になっていると思います。</p> <p>3 「横浜の歴史と文化」刊行企画については、歴博、都発等と共同で立案、取り組まれており連携事業の成果が期待できます。委託の一部進捗状況については、他館との共同調査の市内悉皆調査が遅れ気味となっており、事業計画実現の面に課題が残ります。</p> <p>5 150周年記念事業「歴史と文化」の出版活動は、民間出版社と協働して発行を行う点は評価できます。</p>	<p>1 (仮)「横浜の歴史と文化」の刊行、期待しています。</p> <p>2 横浜居留外国人社会と、それのもたらす国際性の解明、近代横浜の全体的解明が開港資料館の使命であることを認識した調査研究が行われており評価されます。そのような研究は、外部団体との協力なしには不可能です。市内外の諸団体、機関との提携、協力を一層進めることが必要と思われます。</p> <p>3 調査研究事業、資料収集事業は歴史資料館の根幹をなす事業の一つであり、事業計画実現について更なる努力が望ましい。「歴史が常に動いている」ことを資料館において観取できるよう、研究成果をいち早く公開するなど、事業に一層の創意工夫を期待します。</p>
7. 資料収集事業について	<p>3 購入費に限りがある分、寄贈、マイクロフィルムの活用などにより収集に努めていることを評価します。収集資料整理の人員不足に課題が残りますが、専門性を持つインターン活用など何らかの工夫を持つての改善努力を期待します。ファーマー紙の検討購入も資料館の姿勢として評価されます。</p>	<p>4 民間機関との連携・強化が必要です。特に、横浜開港資料館だけではなく他の施設についても同様の連携強化が図れるよう、検討が必要です。</p> <p>5 外部団体との協働を今後も継続し、関係強化や開発していくべきでしょう。</p>

事業区分	各事業評価意見(1~5は各評価委員)	事業総合評価意見(1~5は各評価委員)
10. 出版・刊行事業について	<p>1 「横浜開港新聞」は興味深い試みです。</p> <p>3 前年度の積み残しも含めて見直しを図り、充実した研究成果を掲載するなど、出版事業として着実な取組みが見てとれます。刊行物が企画展示をフォローするなど、連動して事業効果を出している点も評価できます。</p> <p>5 神奈川新聞での「横浜開港新聞」寄稿などは評価できる企画です。地元新聞社との関係強化、全国紙との関係開発など、今後も継続して事業を組み立ててほしい。</p>	<p>2 市民団体との共催に基づく講座や、企画展示と連関した講座など、開催方法について努力している様子がうかがえます。</p> <p>3 体験資料講座など新しいタイプの試みに取り組むなど、事業努力は評価に値します。特に生の資料に触れる感動の提供は、評価されます。総合案内刊行物「たまくす」の成就、「たまくす」プロジェクトについても参加者の関心が高いなど成果がうかがえます。</p>
11. 普及啓発事業について	<p>1 中庭の活用が始まっています。どんどんやってもらいたいものです。</p> <p>3 区役所とも協力体制を確立するなど、地域との連携を視野に市民団体との協働事業が順調であることを評価します。刊行物を生涯学習のテキストに活用するなど、事業相互の連携を今後も期待します。</p> <p>4 受講者のアンケート評価を確実に施策に反映することが大切です。</p> <p>5 郷土史団体との連携や、体験資料講座の実施は評価できます。</p>	<p>4 参加者全員からのアンケート収集が必要です。一部の回答者だけによる「大変良い」「まあまあ良い」などのアンケート評価については、全体から見た評価性かとしては低下します。</p>

事業区分	各事業評価意見(1~5は各評価委員)	事業総合評価意見(1~5は各評価委員)
12. 広報宣伝活動事業について	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 普通だと思います。</li> <li>2 着実に取り組んでいる様子がうかがえます。</li> <li>3 効果的報道活用、またメールによる情報配信など積極的取り組みを評価します。</li> <li>4 広報活動の積極性が、好結果を生み出しています。</li> <li>5 広報宣伝活動は、まだまだ開発の余地があるように見受けられます。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 中庭やカフェも含めて、もっと市民が過ごせる空間を演出してもらえればと思います。せっかく良い立地にあるのですから。</li> <li>2 着実に取り組まれていると思われます。</li> <li>3 全体的に取り組みの努力は見てとれますが、効果的な場への情報提供など、さらに工夫の余地があり、今後に期待します。</li> <li>4 広報活動について市民の意識を探り、反映させることを検討してください。横浜開港資料館の機能は展示等の資料活用スペースと飲食や休息スペースとを一体化して考える必要があります。横浜は、国際都市であり、施設の一体化利用を図るべき先進都市でありたい。</li> </ol>
13. 利用者サービス事業について	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 単に飲食物の提供にとどまらず、抜本的に考え直して、もっと豊かな場所にしてほしい。</li> <li>3 飲食サービス提供事業はその存在と営業プログラムなどの宣伝活動に創意工夫や努力を期待します。</li> <li>4 日本の飲食サービスは設置場所も含めて、低位置に置かれています。根本的に考え方を改めるべき必要があると考えます。</li> <li>5 現在のところでは、可もなく不可もない状態ではないでしょうか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>5 昨年度と同様、まだまだ広報宣伝活動が少ない。日々の施設運営の中で広報も行い、宣伝も行うのは大変だと思いますが、最終的には、この広報宣伝力が博物館の入館者数を左右することを考えれば、まだまだ宣伝力不足です。</li> </ol>



事業区分	各事業評価意見(1~5は各評価委員)	事業総合評価意見(1~5は各評価委員)
14 来館促進事業について	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 新規開拓の努力と、リピーターを増やす努力を明解に分けて、推進して下さい。</li> <li>2 従来の枠の中での発想では限界があるでしょう。</li> <li>3 開館時間の延長、近隣のイベントと連動する開館設定など運営への努力が見られません。延長等について来館者への更なる周知の努力が必要でしょう。</li> <li>4 施設の立地条件には恵まれています、来館者は決して多いとは言えません。今後は、立地性を生かした対策が必要です。</li> <li>5 昨年度から見ても、1施設だけの問題ではないように思われます。財団トップを含めて協議すべき点もあるのかも知れません。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 見られてこそ、研究です。抜本的な改革が必要です。</li> <li>2 難しいことではあります。本施設の財産・立地条件・知名度などを、より活用する方法を考えることが必要でしょう。</li> <li>3 開館延長やギャラリートーク実施など、情報をわかりやすく、また魅力的に表現伝達する努力を期待します。</li> <li>4 施設のリピーターとなる年齢層を探ることにより、来館促進対策に反映させたい。実習・研修の受入れは、キャリア教育との関連性も加味し、一考の受入れ事業施策を検討すべきでしょう。</li> </ul>
15. その他促進事業について	<ul style="list-style-type: none"> <li>3 実習や研修の受け入れは、人材育成にかかわる事業でもあり、今後も努力を続けてほしい。</li> <li>4 職員派遣事業につきましては、限られた職員数において実施された努力の成果が見られます。</li> <li>5 実習生は、将来の博物館の良き理解者となるので、今後も大いに実習生の受入れと指導を望みます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5 来館者促進事業は、まだ検討の余地があり、他施設を参考に研究すべきです。</li> </ul>

事業区分	各事業評価意見(1~5は各評価委員)	事業総合評価意見(1~5は各評価委員)
18. 自己評価・情報公開事業について	<p>3 PDCAに基づく自己評価が実施されている。研修回数が予定回数を下回るなど、一部実施計画に課題が残ります。</p> <p>4 公開事業への取り組みは、新しい施策の実施だけではなく、内容面も含めた改善に反映させる事が必要です。</p> <p>5 PDCAサイクルに則って実施している点は評価できます。</p>	<p>1 なかなか大変かもしれませんが、職員・役員も含めて、もっと柔らかな構造をつくる必要があると思います。</p> <p>2 組織・人材配置など工夫されつつあるようですが、社会の求めるものが変わりつつあることは確かであり、常にそれに対応していくことが必要でしょう。</p> <p>3 職員配置兼務のセクションが複数であり、資料館内部の調整だけでなく、他施設とも連携を密に今後とも活性を図っていただきたい。</p> <p>4 職員個々の努力によって、改善が図られていると思われませんが、全体組織体制を核として、その他の体制をも見直すことが急務と考えます。その結果が、総体的な改善を図るための基準性となると考えます。</p>
21. 組織構成と運営について	<p>3 組織運営にアンケートを反映するなど(エデュケーターとの会議など)は評価に値します。職員配置兼務のセクションが複数であり、運営の質の向上には組織全体としての、更なる努力が望まれます。</p> <p>4 資料館だけの組織体制ではなく、関連各施設との連携を図り、積極的な強化対策を図る必要があります。</p> <p>5 ヒヤリング報告においては、組織体制の確立が甘い印象を受けます。意思決定も、担当職員が汗をかいているだけで、組織としての関与は見えてきません。この点は昨年も指摘されていた点であり、改善されているのか疑問に思います。</p>	<p>5 組織体制については、開港資料館内部の問題よりも、それを統括する財団自身のマネジメント力にも影響されているのではないかと感じます。全体的には努力の成果が見られますが、あと1~2年もすれば、指定管理者の再選定が行われることを考えれば、もう少し組織体制の見直しも可能なのではないかと感じます。</p>

横浜都市発展記念館評価結果一覧

事業総合評価	評価委員					委員総合評価
	1	2	3	4	5	
1・2事業総合評価	A	A	A	A	A	A
1. 市民協働事業展開について (1)市民ニーズの把握 (2)サービスの向上 (1)学校・教職員との連携 (1)市民協働の推進 ----- 2. 経費削減・収益向上事業について (1)経費の節減対応措置	A	A	A	A	A	/
5事業総合評価	A	B	B	A	A	
5. 企画展・特別展示運営事業について (1)「写された文明開化」	A	B	B	A	A	/
6・7事業総合評価	A	A	B	A	A	
6. 調査研究事業について (1)文化財施設等連携事業 (2)調査研究の公開 (3)年間調査研究事業 ----- 7. 資料収集事業について (1)資料の収集 (2)H19年度資料収集事業 ----- (1)マップ作成事業	B	B	B	B	B	/
10・11事業総合評価	A	A	A	A	A	
10. 出版・刊行事業について (1)出版・刊行物の作成 ----- 11. 普及啓発事業について (1)講座イベント開催事業 (2)講師派遣事業 (3)執筆事業	A	A	A	A	A	/
	A	A	A	A	A	

事業総合評価	評価委員					委員総合評価
	1	2	3	4	5	
12・13事業総合評価	A	A	A	A	A	
12. 広報宣伝活動事業について (1)戦略的広報活動	A	A	A	A	B	/
13. 利用者サービス事業について (1)ミュージアムショップ販売事業 (2)H19年度開発・販売事業 (3)飲食サービス事業	A	A	A	A	A	
14・15事業総合評価	B	A	A	A	B	
14. 来館促進事業について (1)来館者促進事業の展開	B	A	A	A	B	/
15. その他促進事業について	/	/	/	/	/	
18・21事業総合評価	A	A	A	A	A	
18. 自己評価・情報公開事業について (1)収蔵資料の利用促進	A	A	A	A	A	/
21. 組織構成と運営について (1)組織体制の確立 (2)意思決定・伝達体制の確立 (3)人材育成・能力開発業務 (4)専門的人材の配置体制 (6)施設運営職員の配置体制	B	B	A	A	B	

### 横浜都市発展記念館評価意見

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
1. 市民協働事業展開について	<p>2 デジタルアーカイブについて、関係機関との調整に進展が見られなかったため、事業の進捗がなされなかったとの事ですが、今後とも、外部組織との協働努力を続けることが必要と思われれます。</p> <p>3 アンケート集計等にも細やかな工夫がみられ、市民ニーズの把握に努力が見られ評価されます。学校教育との連携や市民との協働については、施設規模に制約はありますが、展示内容の工夫、他館との連携、周遊コースを設けるなど、多面的切り口での工夫を望みます。協働団体との着実な事業改善が必要です。</p> <p>5 施設内での少ないスペースの制約の中では、博物館活動を施設外で展開するか検討することも必要でしょう。</p>	<p>1 もっと横浜市民および横浜市役所を巻き込んだプログラムを展開できるのではないのでしょうか。</p> <p>2 限られたスタッフと資源の中で、努力している点は評価されます。</p> <p>3 限られた人員での事業展開において、各セクションともよく努力されていますが、更なる向上を目指し、事業全体を俯瞰し、&lt;C・A&gt;を確実に次につなげることを望みます。</p> <p>5 施設名の周知度をあげることは昨年指摘されていましたが、本年度は市民からの「宝物」(展示資料)を募集するなど、新しい第一歩を踏み出した印象を持ちます。</p>
2. 経費削減・収益向上事業について	<p>3 コンコースパネル展など、民間企業との連携、協賛金確保、複製資料有料化などの対応措置は評価に値します。今後も更に提携先を広げる余地があると思われるので、一層の努力を続けて下さい。</p>	

事業区分	各事業評価意見(1~5は各評価委員)	事業総合評価意見(1~5は各評価委員)
5. 企画展・特別展示運営事業について	<p>1 館の性質からいって、今現在進行している横浜市のビックプロジェクトなども、もっと積極的にテーマ化できるのではないのでしょうか。</p> <p>2 集客力のありそうな展示テーマですが、入館者が今一つ伸びなかった理由はどこにあったのでしょうか。</p> <p>3 「写された文明開化」企画展では、解説についての問題点を会期中で改善したとありますが、博物館や記念館での展示解説は重要なポイントであり、今後は、より慎重かつ充実の解説を望みます。(アンケートからの速やかな改善実施は評価されます)</p> <p>5 やはり市民が見たいのは古写真なのかも知れません。写真集の発行や、施設窓内面のスクリーン(サイン)の工夫など努力しています。</p>	<p>2 アンケートが詳細に分析されています。このような分析に基づいて魅力的なテーマと新しい広報の手段を採用してください。</p> <p>3 展示資料や解説の充実は、記念館としての要であり、一層の努力、充実を望みます。</p> <p>5 教師向け「展示利用の手引」の作成、デジタルデータの有料提供、民間企業との提携、企画展に合わせた地下鉄コンコースでの「鉄道が通った頃の横浜・東京」写真パネル展の実施、誘導サインを配置するなど努力している点がよくわかります。</p>
6. 調査研究事業について	<p>2 近代遺跡調査・建築データベース作成などは、当館の使命そのものに即したものだと思います。大倉精神文化研究所との共同研究は大変興味深く思います。こうした研究は一層発展させるべきでしょう。生活用具・中心商業地施設に関する研究は、他との関係も深い分野です。財団以外機関との連携に加え、財団内部での連携を十分に進めるべきでしょう。</p> <p>3 指定管理者提案書をベースに年度実施計画を立てていますが、事業の実施に積み残しや、スケジュールの遅延が生じるなど、進捗状況が懸念されます。工程管理に一層の努力を期待します。</p>	<p>1 デジタル化の推進とその事業化に期待します。</p> <p>2 将来が楽しみな調査もなされつつあります。横浜都市発展記念館内部での業務の分担、財団内部での調査研究テーマの設定と、協働などに留意すべきでしょう。</p> <p>3 ジェラールのフランス瓦調査成果を、フランス月間に公開するなど、横浜都市発展記念館ならではの企画は評価できます。調査研究においては、未着手や遅れが目立ちます。資料収集や分析につきましても、的確な軌道修正など更なる努力を望みます。</p>
7. 資料収集事業について	<p>2 多彩な資料が収集されつつあるようです。</p> <p>3 一般市民からの資料の寄贈も増えており、市民と協働での資料収集保存に努力している点は評価できます。</p> <p>5 市民からの寄贈も増えています。</p>	<p>5 約1700点のフィルム「旧神奈川ニュース」など、デジタル化が進めば、さらに施設の基調な情報資源になるでしょう。大いに期待します。</p>
(マップ作成事業)	<p>3 「歴史空間デジタルマップ」のコンテンツを具体化する必要があります。長期制作事業につきましても、構成とコンテンツについて早期での見通しが必要です。</p>	

事業区分	各事業評価意見(1~5は各評価委員)	事業総合評価意見(1~5は各評価委員)
10. 出版・刊行事業について	<p>3 企画展や調査成果等の紹介を掲載するハマ発ニュースレター(館報)など、出版刊行物による情報発信がなされており、評価に値します。学校教育との連携や市民協働との取り組みについても、刊行物への反映が必要と考えます。</p> <p>5 新聞形式の刊行物は見ている面白く、企画としては博物館らしくとても良い。</p>	<p>1 神奈川新聞との共同事業は本当に面白いと思いますので、是非継続してください。</p> <p>2 成果が出ています。</p> <p>3 「横浜開港新聞」における共同監修などの経験を今後も活かし、積極的な事業展開が必要です。</p>
11. 普及啓発事業について	<p>3 新聞社との円滑な連携は評価に値します。</p>	

事業区分	各事業評価意見(1~5は各評価委員)	事業総合評価意見(1~5は各評価委員)
12. 広報宣伝活動事業について	<p>3 広報活動が各方面に展開され、成果が上げられているとの印象を受けます。PDCAも的確に行われています。</p> <p>5 メールニュースの配信は数が足りません。もっと戦略的に検討すべきです。</p>	<p>1 ユーラシア文化館との関係もありますが、ミュージアムショップの比重をもっと上げてみてはいかがでしょうか。</p> <p>2 努力の成果が見られます。</p> <p>3 センシティブな広報戦略や、利用者サービスに取り組むことを期待します。</p>
13. 利用者サービス事業について	<p>3 例えば、開館5周年記念事業に合わせての中庭の有効活用は、どの様なプランを描いているのか等、利用者サービスにも展望を持っての向上を期待します。</p> <p>5 地下鉄日本大通り駅コンコースでの出張販売はペイしているのかどうか、収益性のバランスを検討すべきでしょう。</p>	



事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
14. 来館促進事業について	<p>1 推進できてるとはいえないと思います。</p> <p>3 日本大通り活性化委員会に参加し、地域での協働事業を提案するなど、積極的な取り組みと来館促進の姿勢を評価します。博物館施設回遊を折り込んだラリー式のクイズなどにも工夫が見てとれます。</p> <p>5 近隣博物館施設との連携17館を回遊させる企画は大変良いが、それ以外の企画も進めていくべきです。夏休み期間中での、クイズラリー親子200名の参加数字は判断に迷うところもありますが、やはり少ないと言わざるを得ません。</p>	<p>3 地域に密接に溶け込み、施設をアピールしていく積み重ねに、努力が見てとれます。市民との協働への取り組みは、来館者促進にも効果が期待できるため、更なる努力が望まれます。</p>
15 その他促進事業について		

事業区分	各事業評価意見(1~5は各評価委員)	事業総合評価意見(1~5は各評価委員)
18. 自己評価・情報公開事業について	<p>3 デジタル化による利用促進への努力は評価できます。</p>	<p>1 何度も指摘していますが、ユーラシア文化館との関係の抜本的な見直しに入るべきだと思います。</p> <p>2 組織管理に関しましては、他の施設と同様に、施設内部での業務分担、調査研究テーマの調整などについて一層の工夫が必要でしょう。</p> <p>3 組織人材のオーバーラップなどの課題も見られますが、施設全体としては、優れた人材による高いプロデュース能力が十分に発揮できるような、組織体制を確立して行くことが今後とも重要と思われます。</p>
21. 組織構成と運営について	<p>3 専門能力を有する職員の配置により、体制が一応確保できていますが、兼務職員等も存在し、今後も、組織体制の的確な確立へ向けて一層の工夫改善を期待します。</p> <p>5 各委員からも指摘されていましたが、組織体制そのものの検討が必要です。これは、施設だけで検討が行われるわけではないので、やはり指定管理者を選定した横浜市との協議も必要であるように思います。</p>	

平成19年度横浜市文化財施設指定管理者外部評価報告

横浜ユーラシア文化館評価結果一覧

事業総合評価	評価委員					委員総合評価
	1	2	3	4	5	
事業区分・事業名称						
1・2事業総合評価	A	A	A	A	A	A
1. 市民協働事業展開について (1)市民ニーズの把握 (2)市民参画事業 (1)財団エデュケーター調整事業 (1)市民協働の推進	A	A	A	A	A	/
2. 経費削減・収益向上事業について (1)収益向上措置 (2)経費の節減対応措置	A	A	A	A	A	
5事業総合評価	A	A	A	A	A	A
5. 企画展・特別展示運営事業について (1)企画展「青い煌きウズベキスタン」 (2)企画展「ガラスの円盤」 (3)他施設との連携事業 (4)開港150周年開催事業 (5)企画展示評価システムの実行	A	A	A	A	A	/
6・7事業総合評価	A	A	A	A	A	
6. 調査研究事業について (1)研究成果の公開と活用	A	A	A	A	A	/
7. 資料収集事業について (1)資料の収集・整理 (2)資料保存業務 (3)資料の公開業務	A	A	A	A	A	
10・11事業総合評価	A	A	A	A	A	A
10. 出版・刊行事業について (1)出版・刊行事業	A	A	A	A	A	/
11. 普及啓発事業について (1)展示資料活用事業 (2)他施設連携事業	A	A	A	A	A	

事業総合評価	評価委員					委員総合評価
	1	2	3	4	5	
12・13事業総合評価	A	A	A	A	A	A
12. 広報宣伝活動事業について (1) ネット媒体活用事業 (2) 広報集中化活動 (3) アンケート調査事業	A	A	A	A	A	/
13. 利用者サービス事業について (1) ミュージアムショップ販売事業 (3) 飲食サービス事業	A	A	A	A	A	
14・15事業総合評価	B	A	A	A	A	A
14. 来館促進事業について (1) 来館者促進事業 (3) その他(博物館実習)	B	A	A	A	A	/
15. その他促進事業について	/	/	/	/	/	
18・21事業総合評価	A	A	A	A	A	A
18. 自己評価・情報公開事業について (1) 自己評価公開推進事業 (2) 情報公開事業 (3) 実績評価事業	A	A	A	A	A	/
21. 組織構成と運営について (1) 組織体制の確立 (2) 意思決定・伝達体制の確立 (3) 人材育成・能力開発業務 (4) 専門的人材の配置体制 (5) 施設運営職員の配置体制	A	A	A	A	B	

横浜ユーラシア文化館評価意見

事業区分	各事業評価意見(1~5は各評価委員)	事業総合評価意見(1~5は各評価委員)
1. 市民協働事業展開について	<p>3 アンケートによるニーズの把握によって、市民参加型展示企画を実現、市民と一緒に開館を祝するという姿勢(「宝物」募集)は評価に値します。「エジプト伝統ベリーダンス・ワークショップ」など、市民参加型イベントを通して、ユーラシア文化館の周知を図るなど努力の成果が見られます。</p> <p>5 市内全校への広報、中区小学校へのPR、小学生向けのチラシ作成など、努力している点は評価できます。</p>	<p>1 小さい館として位置づけるならばよくがんばっていると思いますが、好立地、好コレクションの余条件をもっと生かすならば、もっと大志を抱いた活動に向かってもいいのではないのでしょうか。</p> <p>2 運営が難しいと思われる施設を、創意工夫しながら運営している成果が現れています。</p> <p>3 施設の規模など、限られた環境の中で、企画や協働、収益といった事業運営によく努力され、成果を上げています。</p>
2. 経費削減・収益向上事業について	<p>3 企画展と関連させた協賛金や高速鉄道との提携など、積極的な収益についての努力が見られます。ショップの出店など、外への開かれた姿勢も評価されます。</p> <p>5 中華街、高速鉄道との提携など努力している点がわかります。</p>	<p>5 地元アーティストとの連携、企画展示のテーマにあったイベント「ベリーダンス」、体験参加ワークショップの開催などは評価できます。</p>

事業区分	各事業評価意見(1~5は各評価委員)	事業総合評価意見(1~5は各評価委員)
5. 企画展・特別展示運営事業について	<p>2 (2)企画展「ガラスの円盤」の成果につきましては、未達成であったようですが、手法は面白く、注目度も高く、良い企画だと思います。</p> <p>3 「青い煌きウズベキスタン」企画展はテーマの特性を活かし、旅行社とのタイアップやギャラリートーク、窓利用広報など、来館者への見せ方や情報提供がよく工夫されています。「エジプトの小さなガラスの円盤」企画展も、新鮮な試みがTV「新日曜美術館」で初めて紹介されるなど、資料のいち早い公開なども含めて、事業の展開を総じて高く評価します。</p> <p>5 国交15周年の企画を、数年前から温めている点は評価に値します。旅行代理店との連携などもよい企画です。</p>	<p>1 ウズベキスタンのような企画などを軸に、ユーラシアという雄大な言葉をもっと定位させていただければと思います。</p> <p>2 企画展示のテーマ設定、ワークショップなど手法もよく考えられており、高い評価が与えられると思います。</p> <p>3 ユーラシア文化館での企画展・特別展示等への事業姿勢は、企画の暖めかた、資料公開のいち早いタイミング、他施設との連携、見せ方など、随所に工夫努力がなされ、施設の規模は小さいながらも確かな成果を着実に積み重ねているとの印象を受けます。</p> <p>5 NHKに取り上げられるような企画は、やはり博物館を元気にさせます。</p>
6. 調査研究事業について	<p>3 研究事業の成果を順調に上げており、PDCAにも着実に取り組まれています。特にモンゴル文字に親しめる企画や、楽しく検索できるデータベース画面制作の姿勢は、評価されます。</p> <p>5 「メソポタミア楔形粘土板文書」研究でのデータベース構築は地味ですが、博物館の調査研究活動としては大変評価できます。問題は、その利用率をどのように向上させるかです。</p>	<p>1 他の項目と同様ですが、「ユーラシア」という言葉を再定義した上での調査・資料収集に向かう必要があると思います。</p> <p>2 特殊で、裾野が広くない分野です。外部の専門的な施設・機関等との協働事業が不可欠だと思われます。</p> <p>3 調査研究事業については今後も地道に取り組み、ユーラシア文化の集積と発信を期待します。</p>
7. 資料収集事業について	<p>3 旧江上コレクションの拡充や、初めての来館者からの寄贈・収集も行われています。OPAC検索による文献公開も、今後一層期待します。</p> <p>5 資料収集事業での江上コレクションの拡充方針との関連で、今後も継続して収集に励んでもらいたい。</p>	

事業区分	各事業評価意見(1~5は各評価委員)	事業総合評価意見(1~5は各評価委員)
10. 出版・刊行事業について	<p>1 きれいな本ができていますね。</p> <p>3 館報、図録とも刊行が着実に行われ、好評を得ていることを含め評価に値します。</p>	<p>3 「触れる展示」・「ベリーダンスワークショップ」など、啓発普及の面からもよく努力されており、他施設(ZAIM)との連携や地区の共同イベントへの参加など、連携事業の取り組みにも期待できます。</p>
11. 普及啓発事業について	<p>3 「触れる展示」・「ベリーダンスワークショップ」など、啓発普及の面からもよく努力されており、他施設(ZAIM)との連携や地区の共同イベントへの参加など、連携事業の取り組みにも期待できます。</p> <p>5 古地図の活用は評価できます。</p>	

事業区分	各事業評価意見(1~5は各評価委員)	事業総合評価意見(1~5は各評価委員)
12. 広報宣伝活動事業について	<p>3 メールニュースの配信や学校へのアプローチなど、幅広く戦略を持った広報が展開されており、評価に値します。</p> <p>5 旅行代理店との提携活動が可能であったため、今後とも連携協力者の開拓に力を入れていくべきでしょう。</p>	<p>1 ミュージアムショップ展開の可能性のある博物館だと思っています。規模の増大も含めて、がんばって欲しいと思います。</p> <p>2 工夫と努力が見られます。</p> <p>3 オリジナルグッズやラッピングの工夫など、極め細かい努力は利用者にとって鑑賞+付加価値として館の魅力を高めるものであり、できることに全力をあげて取り組む姿勢は今後も期待します。</p>
13. 利用者サービス事業について	<p>3 自前でのチラシや商品パッケージの作成など、極め細かく、ミュージアムショップでの売り上げ増に取り組まれています。</p> <p>5 6月のフランス月間には、ルーブル美術館のグッズ類を販売するなど、努力の様子がわかります。ただし、収益性についてはさらに検討していくべきでしょう。</p>	



事業区分	各事業評価意見(1~5は各評価委員)	事業総合評価意見(1~5は各評価委員)
14. 来館促進事業について	<p>3 近隣、地元との連携や博物館実習希望生の受け入れ・増加など、促進事業についても評価できます。</p> <p>5 微増傾向にあるとのことですが、来館者数については都市発展記念館の企画展との関連もありますので、その点を今後どのように考えていくのでしょうか。</p>	<p>1 横浜情報文化センターと一体にあるということをもっとアピールする戦略が必要だと思います。一度くらいは大きなお金を投じてもいいのではないのでしょうか。</p> <p>3 来館促進にも努力されていますが、市民協働などまだ工夫の余地が残されており、一層の創意工夫を期待します。市民協働は人や組織に派生して、新たな来館者やリピーターの開拓にも効果が期待できます。</p>
15. その他促進事業について		

事業区分	各事業評価意見(1~5は各評価委員)	事業総合評価意見(1~5は各評価委員)
18. 自己評価・情報公開事業について	<p>3 評価・改善システムの確立が着実に行われていることを評価します。今後一層の努力を期待します。</p> <p>5 PDCAサイクルに則り、推進されています。</p>	<p>2 横浜都市発展記念館に基づく施設運営は、良好に行われていると評価されます。</p> <p>3 事業報告や財務状況の公開は当然あるべき姿であり、これを着実に実施することは評価できます。公益法人制度改革を視野に、今後、自立的運営体制の基盤整備は必須であると考えます。</p>
21. 組織構成と運営について	<p>3 高度の専門能力をもつ職員が配置されており、個々の努力もあり事業にも成果が見られます。制約ある人員配置ではありますが、今後も優れたプロデュース能力を発揮できる組織体制の更なる確立を望みます。</p>	

平成19年度横浜市文化財施設指定管理者外部評価報告

横浜市三殿台考古館評価結果一覧

事業総合評価	評価委員					委員総合評価
	1	2	3	4	5	
事業区分・事業名称						
1・2・3事業総合評価	A	A	A	A	A	A
1. 市民協働事業展開について (1)市民ニーズの把握 (2)サービス向上の展開 (1)連携事業の展開 (1)協働事業設計と展開	A	A	A	B	A	/
2. 経費削減・収益向上事業について (1)経費節減施策の展開 (2)収益事業の展開	A	B	B	A	A	
3. 魅力資源活用事業について (1)資源活用の取り組み	A	A	A	A	A	
4事業総合評価	B	B	C	B	B	B
4. 常設展示運営事業について (1)展示更新計画事業	B	B	C	B	B	/
12・13事業総合評価	A	B	A	A	A	A
12. 広報宣伝活動事業について ----- 13. 利用者サービス事業について (1)サービス事業の展開	/	/	/	/	/	/
15その他促進事業について	/	/	/	/	/	/
20事業総合評価	A	A	A	A	A	A
20. 施設保守管理事業について (1)保守管理業務 (2)環境維持管理業務	A	A	A	A	A	/

横浜市三殿台考古館評価意見

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
1. 市民協働事業展開について	<p>3 体験学習実施や剥ぎとり標本展示、勾玉づくりやキャンプなどいずれも参加者から評価の高い事業を実施しており成果がみてとれます。広報宣伝活動の範囲拡大にも更なる努力を期待します。</p> <p>4 関連施設や埋蔵文化財センターとの連携事業の展開とは、今後も継続が必要です。(協働事業の充実)</p>	<p>1 40年前にできた施設を、現在の状況の中で有効に活用するのは無理があります。抜本的な改革は職員だけでは不可能なので、財団および教育委員会も含めて全体で推進して頂きたいと思います。</p> <p>2 指定管理者として施設が、戦略的にあまりエネルギーを投ぜず、施設の存在をより多くの市民が認知していくようになればよいでしょう。</p> <p>2 三殿台の立地条件を活かしての、地域コミュニティに開かれた事業展開に期待します。広報宣伝については努力の余地が残ります。</p> <p>4 限られた職員数での管理運営施設ですが、市民ニーズの把握や事業展開に伴う広報事業については、積極的に取り組んでいただきたい。特色のある事業が展開されています。</p>
2. 経費削減・収益向上事業について	<p>3 効率的経費の執行に更なる努力を期待します。</p> <p>4 収益事業の拡充につきましては、工夫が図られています。</p>	<p>5 少ない職員人数で、よく努力しています。</p>
3 魅力資源活用事業について	<p>3 三殿台の魅力をいかんなく発揮し、体験型事業を実施しており、企画や実施内容の成果が見て取れます。幅広い年代や職業の来訪があり、地域コミュニティの活性にも連動する取り組みは評価できます。</p>	

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
4. 常設展示運営事業について	<p>3 開館以来展示が大きく更新されてこなかったという運営姿勢に、来館者やリピーターの増加を想定するのは難しく、早急に計画、改善に取り組む必要があります。限られた予算や人員ではあるが今後の一層の努力を期待します。</p> <p>4 常設展示資料の大幅な更新は、市民ニーズでもあり、来館者の増員や収益を向上するためにも重要な施策と考えます。</p> <p>5 企画案そのものよりも、予算的問題が大きいのではないのでしょうか。</p>	<p>1 40年前にできた施設を、現在の状況の中で有効に活用するのは無理があります。抜本的な改革は職員だけでは不可能なので、財団および教育委員会も含めて全体で推進して頂きたいと思います。</p> <p>3 財団によって管理運営が行われている文化財諸施設等との連携を図り、展示資料の更新やボランティア導入の早期実現を期待します。</p> <p>4 展示室の充実は、今後の大きな課題と考えます。</p>
12. 広報宣伝活動事業について		<p>1 40年前にできた施設を、現在の状況の中で有効に活用するのは無理があります。抜本的な改革は職員だけでは不可能なので、財団および教育委員会も含めて全体で推進して頂きたいと思います。</p> <p>3 サービス事業も含めて、考古館を総合的にプロデュースし、来館者を増やす抜本的な工夫改善に取り組むことを期待します。</p>
13. 利用者サービス事業について	<p>3 周辺地域の散歩地図作成や、パンフレットの新規作成、展示資料・関連遺跡解説など、きめ細かい努力を評価します。</p> <p>4 広報活動については、市内全域をとして実施する必要があると考えます。一般市民や学校向けとしての広報活動が少なすぎると思われれます。サービス事業の原点と思います。</p> <p>5 来館者の満足度は高いと評価できます。特に体験型の来館者サービス事業は、今後も継続していくべきでしょう。</p>	

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
15 その他促進事業について		
20. 施設保守管理事業について	<p>3 適正に執行されていることが確認されます。</p> <p>5 日常業務を、少ない職員数でこなすのは大変な仕事ですが、復元堅穴住居の補修なども維持管理業務の一環であるため、屋根の補修などのノウハウについても、市民ボランティアを養成して行ってはどうでしょうか。</p>	<p>1 40年前にできた施設を、現在の状況の中で有効に活用するのは無理があります。抜本的な改革は職員だけでは不可能なので、財団および教育委員会も含めて全体で推進して頂きたいと思います。</p> <p>3 経費節減のため、日常保守を職員が行うなど努力がみとれます。省エネ対策やゴミ減量にも取り組まれ、今後も努力を続けてほしい。</p> <p>4 今後は、管理面の一部に対し、市民のボランティアによる管理活動事業を計画・実施することが必要です。</p>

## 6 横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会「総評」

外部評価委員会

### ◆ 外部評価にあたって

平成 19 年度の外部評価は、昨年度に引き続き、(1)指定管理者による自己・総合評価「横浜市文化財施設指定管理者点検評価シート」に基づいた評価結果を参考にしながら、(2)指定管理者へのヒヤリングを行い、その後、(3)各外部評価委員がそれぞれの博物館に対して評価表を作成し、(4)それらをもとに総合的に判断・評価した。

とは言え、平成 18 年度外部評価委員会「総評」でも述べたとおり、「当該年度の外部評価の結果は、博物館の運営改善の観点から翌年度以降にも反映されるべきである」との認識の上に立っている。このことを裏返して言えば、指定管理者による自己・総合評価に加え、新たな要素として昨年度に指摘された外部評価委員会からの「要望事項」および、「今後の課題」等の課題をどれだけクリアーしているか、という点も評価されることになる。

平成 19 年度は現地視察を行わなかったが、外部評価委員会の会場を横浜市歴史博物館および横浜開港資料館で開催したため、改めて現地視察をすることは省略した。

昨年度との違いは、指定管理者管理運営業務報告書に基づいた、指定管理運営業務評価シートについて「ヒヤリング対象事業の重点項目」中期計画案を作成したことである。

ヒヤリング対象事業の重点項目は、平成 19～22 年度の 4 年間分の外部評価での視点となる中長期ビジョンに立って、以下の(1)共通認識、(2)基本方針を定めることによつて外部評価に取り組むこととした。

(1)最重点課題の事業区分を指定管理者にも明示しつつ、また外部評価委員もその最重点課題を共通認識し、

(2)年度ごとにテーマを(事業区分を横断的に見ることにもつながるため)絞り込むことを基本方針とした。

この方針に基づいて平成 19 年度の外部評価は「来館者サービス」という視点でヒヤリングを行った。

なお、平成 20 年度以降は以下の視点を設定し、ヒヤリングを実施することとした。

(H19 年度対象事業)： 来館者サービスの面から見る広報サービス、教育サービス

(H20 年度対象事業)： 財政・経営面(収益性)、来館者促進

(H21 年度対象事業)： 資料面(展示、収蔵資料、データベース化、インターネットサービス・・・)

(H22 年度対象事業)： 学術面(調査研究)、総合評価、達成率チェックその他

## ◆ 平成 19 年度：指定管理者外部評価（結果）

横浜市歴史博物館ほか横浜市文化財施設 4 館は、概ね適切な管理運営および経営を行っており、指定管理者外部評価委員会における総合評価は総じて高く、その結果は A 評価であった。

しかし、本年度の重点ヒヤリング項目である来館者サービスの面から見る「教育サービス」は概ね評価できるものの、「広報サービス」は依然として取組みが不十分であることは指摘せざるを得ない。

## ◆ 総 評

指定管理者制度の導入後、平成 19 年度は 2 年目の外部評価の実施であったが、各外部評価委員とも諸事業の実施内容については概ね高く評価しており、たとえば、博物館活動の根本である資料収集活動、調査研究に基づいた展示活動、教育普及活動などは、昨年度の実績に基づいて概ね目標が達成されていると判断した。

本年度の重点ヒヤリング項目「教育サービス」の観点から見れば、前向きに運営していることから、高く評価した。

しかしその一方で、広報活動や市民協働事業（学校連携や市民協働）などは不十分である。この原因は、マンパワーの問題と多くの事業を抱えている現状を理解すればやむを得ない面も多々あるが、昨年度の評価でも指摘されている点であり、それが改善されていない点から判断すれば、残念ながら弁解の余地はないように思われる。

多くの外部評価委員からは、「実質的には施設の指定管理が 3 年目に入っているため、今後、大きな方向性を考える場が必要なのではないか」との指摘を受けている。これは個別の施設の問題というよりも、「5 施設に対しての総合プロデュース力・プロデューサーが必要」との認識の上に立つもので、この指摘をどのようクリアーにしていくかは今後の大きな課題である。1 施設でできない業務を組織全体としてカバーする組織体制の強化、または運営システム・広報システムの改善が求められる。

結論的に言えば、(1) 組織変換を考える時期に来ており、(2) 組織内での将来へつなげた議論ができる仕組みが必要、かつ (3) 管理運営側でもある経営者ならびに設置者の責任を明確にしていく必要がある。

個別の博物館については、自己評価の結果、部分的に B 評価が見られるが、指定管理者制度導入後の 2 年目の外部評価であり、昨年度と比べてどの程度改善されているのかは、おおよそ見当がつく。限られたマンパワーや財政資源の配分など指定管理者の実情の観点からすれば、個々の施設管理運営については概ね高く評価されてよい。

以下、各施設の個別評価について記述する。



## 《 横浜市歴史博物館 》

各事業区分での事業の展開は概ね評価できる。特に、市民協働事業の展開については、エドゥケーター中心の研究会や子供用ホームページの製作など積極的に取り組んでいることは評価できる。

また、テーマの選択、個々の取り組むべき事業に関しては、年ごとに良くなってきており、評価に値する。歴史博物館として、ある程度の運営はなされていると判断できる。

しかし、改善点としては幾つかの点が指摘できるであろう。

第1点目は、組織全体での収益向上、経費削減への取組みについてである。このことについては、まだまだ改善の余地がある。

第2点目は、PDCA の取り組みも組織全体として共有すべき点である。個々の努力は見えるが、「調査研究事業」などでは、全体として連携ができていないか、相互に批判し合い、高めあう努力が必要であるように思われる。財団のトップマネジメントのリーダーシップのもとに、組織力をどうしたら高められるかを考えていくべきであろう。

第3点目は、横浜市の博物館として、夢のある理念や方向性、ビジョンを持って運営しているのか、疑問が呈された点である。外部評価委員からは、「モチベーションを上げて取り組んでほしいし、大きな改革が必要である」ことが指摘された。組織力の全体を高めるためには、何が必要であるかを考えると同時に、公益法人改革の流れの中で、組織運営をどう進めていくのか、今から検討作業に着手する必要があるだろう。

展示内容も今すぐ更新することは不可能であるにしても、「横浜市の歴史とは何か」という大所高所の観点から、また全体的なフレーム作りから改めて検討してみると、博物館の新しいコンセプトや運営方針に影響を及ぼすアイデアも出てくるのではないかと考えられる。いずれにしても、来年度に向けて大いに議論を進めるべきであろう。

## 《 横浜開港資料館 》

全体的に評価できる。特に、経営の観点から見て、資料の有償貸出については高く評価できる。プレゼンテーションも内容が良くなってきていると判断した。企画力について施設の特徴も出ていて、市民ニーズと企画とマッチしている点は評価に値する。

さらに特筆すべき点は、アーカイブのデジタル化、その貸し出しのシステムの構築であろう。専門業者との経営的な関係プレーも含めて、もっと広報周知がなされた場合、施設を支える基幹事業になると考えられる。また、それは一般的な博物館のアーカイブ事業の将来の可能性を示すモデルとなると予想される。

しかし反対に、最高の立地条件の中で、横浜開港資料館の資産を最大限活用することを真剣に考えていくべきであろう。現在でも少しずつ成果が見られるが、「総合プロデュース力を生かしてほしい」という指摘は外部評価委員から多く聞かれた指摘である。

残念ながら、「来館者促進事業」は評価委員全員が B 評価であった。来年度は、「弱み」を「強み」に変える努力を重点的に注ぎ、「来館者促進事業」を A 評価に変える施

策を検討してはどうか。

横浜開港資料館という施設について、日本の中でもっとそのポジションをアピールすべきである、というのが外部評価委員会の結論である。

### 《 横浜都市発展記念館 》

横浜都市発展記念館ならではの企画展は、概ね評価できる。調査研究事業での共同研究や中心商業地の研究などは、内容的に評価できる事業であるものの、調査研究事業の遅れが見られたために、調査研究事業は B 評価であった。

指摘できる点としては、次の 3 点である。

- (1)施設に関して広報戦略的に強く打ち出す必要があること。
- (2)企画や調査研究事業に係る職員が少ないことから、どこかに過重な負担がかかるのではないかと不安視されること。
- (3)他の施設や横浜開港資料館・横浜市立大学などと連携し、組織的な活用を進めていくこと。

また横浜都市発展記念館の評価とは直接的に関係はないが、「横浜都市発展記念館」と「横浜ユーラシア文化館」の施設は共有部分からなっているため、個別に評価することに無理があるのではないかと、評価方法の在り方について指摘があった。この点については、指定管理期間の 5 年間また外部評価期間の 5 年間には解決できそうな問題ではないため、次期の指定管理者選定の段階でどのように評価するのか、という点も含めて検討されたい。

### 《 横浜ユーラシア文化館 》

特別展事業を行う際の企画の準備期間や、資料公開のタイミングや他施設との連携・連動において、随所に工夫が見られた点は大いに評価できる。着実に成果を積み上げているように感じられ、事業への取組みの姿勢が、生き活きと行われている様子が伝わってくる。具体的には、アンケートによるニーズの把握によって、市民参加型展示企画を実現し、市民と一緒に開館を祝するという姿勢（「市民の宝物」募集）は評価に値する。「エジプト伝統ベリーダンス・ワークショップ」など、市民参加型イベントを通して、ユーラシア文化館の周知を図るなど努力の成果が見られ、高く評価したい。また、特別展のテーマ設定など常日頃から努力している様子が見られた。限られた職員による他施設との連携については評価できる点であろう。

これに対し、改善点も幾つか指摘することができる。来館促進も努力している点は認めるが、市民協働などまだ工夫の余地が残されており、一層の創意工夫が必要である。市民協働事業は他の事業に比べれば、まだまだ不十分であり、新たな来館者やリピーターの開拓にも、尚一層の努力が必要である。

## 《 横浜市三殿台考古館 》

昨年同様、遺跡活用事業等の取り組みは、施設の特質からも評価することができる。収蔵庫の資料整理等は着実に実施しており、全体更新を見据えながらの部分的活用等のきめ細かい取り組みが実現している。一言で言えば、他の施設とは比較できないものの「よくやっている」と評価できるであろう。

また、施設が持っている特徴を活かし、市民協働や市民ボランティアの活用といった地域コミュニティに開く努力をすることによって、広報につながっていけるのではないかとの指摘もあった。

その一方で、資料収集や研究事業については専門性を高めると同時に、市民との協働により事業の幅を広げる必要があることも外部評価委員から指摘された点である。さらに、屋外展示施設や資料活用についても、展示更新や見やすい工夫など、たゆまぬ努力を要する部分も相当ある。

厳しい指摘をすれば、史跡の保護・遺跡の活用方法については抜本的な見直しが必要であり、現在の管理運営状態の中でどうしたらよいかフレーム作りをすべき時期に来ているのではないだろうか。

### ◆ 指定管理者に対する要望事項

外部評価委員会としては、横浜市文化財施設がより一層市民生活に根ざした活動を展開し、さらなる運営改善へと導くことに期待を寄せて、以下のとおり要望する。

1. 昨年度「総評」においても指摘したが、やはり全体的に見て広報・宣伝力が弱い点は否めない。特別・企画展のテーマ設定や教育普及プログラムのテーマの選定は、博物館にとって重要な役割を果し、それなりに成果が見えていると評価できる。新聞社、出版社との連携事業も始まりつつあり、その点は評価できるが、パブリシティ・広報宣伝力の強化はあらゆるチャンネルを使って積極的に推進していくべきである。広報を担当する職員も採用されたとのことであり、さらなる広報の成果に期待したい。
2. 昨年度も「事務系と学芸系での2分化した業務対応では期待した成果を得ることは難しい面もある」と、外部評価委員からは指摘され、改善の結果が目に見えるように期待していた。しかし、本年度(平成 19 年度)の外部評価では、組織構成と運営について(1)組織体制の確立(2)意思決定・伝達体制の確立(3)人材育成・能力開発業務(4)専門的人材の配置体制による確立業務(5)施設運営職員の配置体制の5分野において不十分である、と外部評価委員5名のうち3名が指摘している。この点を鑑みれば、やはり来年度に向けた組織改善が必要である。

# 横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会要綱

制定 平成19年1月19日

## (趣旨)

第1条 この要綱は、横浜市歴史博物館、横浜開港資料館、横浜都市発展記念館、横浜ユーラシア文化館及び横浜市三殿台考古館（以下「文化財施設」という。）の指定管理者が指定管理期間中に行った管理運営の状況について、第三者による公平かつ適正な評価を実施するため設置する、横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会（以下「評価委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定めるものとする。

## (評価委員会の業務)

第2条 評価委員会は、文化財施設の指定管理者の評価に関する次の事項を所掌する。

- (1) 評価基準及び評価方法に関すること
- (2) 管理運営状況の評価に関すること
- (3) 評価結果の教育長への報告に関すること
- (4) 管理運営及び評価に関する助言等
- (5) その他、委員会において調査検討が必要とされる事項

## (組織)

第3条 評価委員会は、文化財施設の運営管理又は文化財保護事業に関する有識者、利用者の代表並びに財務専門家等の中から教育長が委嘱した者をもって組織する。ただし、委員の辞職などにより審査に支障が生じたときは、教育長は新たな委員を委嘱することができるものとする。

- 2 評価委員会に委員長を1人置く。
- 3 委員長は、委員の互選により定める。
- 4 委員長は、評価委員会の会務を総括する。
- 5 委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代理する。

(任期)

第4条 委員の任期は、文化財施設の指定管理者の評価等について教育長から委嘱された日から、その委嘱された日が属する文化財施設すべての指定管理期間が終了し、当該期間の最終年度の評価を終了した日までとする。

2 委員の再任をさまたげない。

(会議)

第5条 評価委員会は、委員長が招集する。

2 委員長は、会議の議長となる。

3 評価委員会は、委員の2分の1以上の出席がなければ開催することができない。

4 評価委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決するものとし、可否同数の場合は、委員長の決するところによる。

(指定管理者の出席)

第6条 委員長は、評価委員会において必要があると認めるときは、文化財施設の指定管理者の出席を求め、管理運営状況に関する説明又は意見を聴くことができる。

(関係人の出席)

第7条 委員長は、評価委員会において必要があると認めるときは、専門的事項に関し知識又は経験のある者その他関係人の出席を求め、その説明又は意見を聴くことができる。

(資料の提出等の要求)

第8条 評価委員会は、その所掌事務を遂行するため必要があると認めるときは、教育長に対し、資料の提出、意見の開陳、説明その他必要な協力を求めることができる。

(委員の責務)

第9条 委員は、公正、公平に評価を行なわなければならない。

2 委員は、文化財施設の管理運営に直接参加してはならない。

3 委員は、評価の過程において知り得た個人情報等、保護の対象となる情報を公表してはならない。また、その職を退いた後も同様とする。ただし、横浜市及び評価委員会が公表した情報については、この限りではない。

(審査結果の公表等)

第10条 横浜市が保有する情報の公開に関する条例（平成12年2月横浜市条例第1号）第31条の規定により会議は公開とする。ただし、委員長の認めた場合は会議の一部又は全部を非公開とすることができる。

- 2 評価委員会における評価の結果は、教育長が報告を受けた後、公表する。ただし、評価委員会が必要と認めた場合は、時期、事項を決定して公表することができる。
- 3 評価委員会は、評価過程にかかる公正性、透明性を確保するため、委員会の議事録を整備するものとする。

(事務局)

第11条 評価委員会の事務局は、教育委員会事務局文化財課が行う。

- 2 事務局員その他評価委員会の場に出席した者は、評価の過程を通じて知り得た個人情報等、保護の対象となる情報を公表してはならない。ただし、横浜市及び評価委員会が公表した情報については、この限りではない。

(その他)

第12条 この要綱に定めるもののほか、評価委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成19年1月19日から施行する。

(会議召集の特例)

- 2 この要綱施行後の最初の委員会の招集は教育長が行うものとする。